しみずの教育
ちょっといい話

【平成２８年１２月号】

清水小学校

校長　山　下　　勇

清水小学校にご来校いただき、ありがとうございました

杉谷・淺間選手から児童会三役にサインボールの寄贈

清水町応援大使日本ハムファイターズの杉谷拳士選手と淺間大基選手が来校し、子どもたちからの質問に答えたり、キャッチボールをしたりするなど、子どもたちとの交流がありました。最後に、サイン入りボールの記念品や色紙を児童会三役に手渡してくれました。子どもたちに優しく、丁寧に対応する真摯な姿勢がとても印象的でした。野球界でプロ選手として活躍しているお二人から、オーラのようなものを感じました。また、ＦＭ　ＪＡＧＡのＤＪ栗谷昌宏さんが司会進行役を務め、交流の場を盛り上げてくれました。子どもたちにとって思い出に残るものとなりましたし、子ども一人ひとりに将来への夢や希望を抱かせる機会になりました。

ちなみに、二人が大事にしている言葉は、「自信は努力」（杉谷選手）「仲間は宝」（淺間選手）だそうです。今後のお二人の活躍を期待したいと思います。

宮西さん、楽しい時間をありがとうございました

絵本作家の宮西達也さんが来校し、自作の絵本をパワーポイントで写しながら読み聞かせ会をしていただきました。子どもたちは、宮西さんの話術に引き込まれ、話に聞き入り、笑いの絶えない楽しい時間を過ごしていました。お話の楽しさや本の面白さを実感することができました。今後、どんどんいろんなジャンルの本を手にして、読んで、読んで、読んで、読書が好きな子どもたちになってほしいと思います。「読書は心の栄養」と言った人がいましたが、まさに読書は知識を増やすだけでなく、心を耕し、豊かな心を育むことにつながっていくものと思います。ぜひ、家でも読書を（家読）していただきたいと思います。清水町では、毎月１９日が「読書の日」です。

親子を対象とした「スマホ・ケータイ安全教室」の実施

１１月３０日（水）参観日に６年生の授業で、講師にＤｏｃｏｍｏの方を迎え「スマホ・ケータイ安全教室」を実施しました。子どもたちが中学校に入る前に、スマホ・ケータイの便利さや危険性の両面から、正しい知識をもち、理解した上で所持するとともに、利用する場合のトラブルへの対処の仕方やその未然防止をねらいとした授業を行いました。多くの保護者の皆様にも参加いただき、親子で「スマホ・ケータイ」について学び、考える機会となりました。スマホ・ケータイを持たせるかどうかは親の判断で有り、利用の仕方は子どもと保護者両者の責任であることを理解してほしいと思っています。（昨年、町として「スマホ・ケータイの利用のきまり」を作成し、取り組んでいます）ますます、情報社会が進展していく今だからこそ、「スマホ・ケータイ」を有効かつ効果的に活用することができる力を育てていくことが重要であることを親子で学ぶことができました。

御影小学校

開校 100 周年記念式典並びに祝賀会の終了のお礼

校長　近　藤　弘　子

「旭に映ゆる剣山　気高き姿仰ぎつつ・・・」
と、校歌の歌い出しにある剣山が美しくはっきり眺められた晴天の 11 月 26 日（土）、開校 100 周年記念式典並びに祝賀会が開催されました。開催に際しまして、ご来賓の皆様、地域住民・保護者並びに町内外の同窓生等、多数の方々のご臨席やご協力を賜りました。これもひとえに御影小学校に対する熱いお気持ちの賜物と心よりお礼申し上げます。

この 100 周年を大きな節目として、皆様から寄せられました温かいご厚情を大切にし、保護者・地域の期待に応えるべく、本校の充実発展のため、鋭意努力していく所存でございます。どうか今後ともご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。

さて、式典の当日、白っぽい服装で式に臨んだ子どもたちはとても輝いていました。入場から２時間余り、立派な態度で参加し、話の聞き方、礼の仕方等、前日練習以上の成果を発揮していました。

また、アトラクションでの石丸児童会長の挨拶、全校合唱は、参加者を感動させました。式が終了してから、「児童会長の挨拶は立派だった」「１年生から６年生まで大きな

口を開けて歌っていて、好感がもてた」「学校のまとまりを感じた」等、多くの方々からお褒めの言葉をいただきました。

祝賀会でのオープニングセレモニー、４年生から６年生による「よさこいソーラン」も開校 100 周年事業協賛会から贈られたおそろいの法被とはちまきをして、元気よくハツラツと踊り、会を盛り上げました。また、６ 年生によるサプライズパフォーマンスも会場をあっと言わせ、楽しませてくれました。

災害の後、協賛会の推進委員会では、この記念式典、祝賀会を開催すべきかどうかについて１ヶ月近く話し合いました。その中で自らも被災して困難を抱えていながらも「子どもたちのために行おう」と決断してくださいました。

当日の子どもたちの輝きと頑張りと笑顔を見て、開催できて心からよかったと思いました。子どもたちの心にも忘れられない思い出として深く刻まれたことでしょう。

ご協力ご支援いただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

清水中学校

ボランティアに励むサッカー部

校長　宝　輪　博　継

昼間、５㎝ほどの降雪があった放課後、部活動の時間にサッカー部が校庭の除雪をしてくれていました。本校では、昼間降雪があると、よく部活動の時間に、部ごとに除雪作業をしてくれます。サッカー部に限らず、野球部や陸上部など、いろいろな部が自主的に除雪してくれるので、ときどき部活動黒板に、公務補さんの感謝の言葉が書かれていたりします。

中でもサッカー部はボランティア精神が旺盛で、振り返ると、毎年春にはランニングコースの国道や町道のゴミ拾いをしてくれています。軽トラックいっぱいのゴミを集めてきて、校舎脇で分別までしてくれます。多くは心ない大人が捨てたゴミですから、大人の一人として心を痛めています。部員たちは「いつも使わせていただいている道路脇のゴミですから・・・」とさわやかな笑顔を見せてくれます。

８月の台風災害の際に、学年ごとに自主的に泥かきをしたり、全校生徒で給水所のお手伝いなどのボランティアに取り組んだことは、様々なところでお知らせしています。

給水所に訪れたお年寄りからは「中学生立派だね。明日も来てくれるかい？」と声をかけていただきましたが、学校には定められた教育課程がありますから、ボランティアにかけられる時間にも限りがあり、全校での取組は一日だけにさせていただきました。

そこでも頑張ってくれたのはサッカー部。放課後の部活動の時間に、給水所のお手伝いをしたり、町の図書館脇のゴミ拾いをしたりしてくれました。

大会で勝って賞状をいただいてくるのはもちろんうれしいことですが、こうして、自分たちでできることを考え、人のために働こうとするのは、もっともっと立派なことです。

部活動は教育課程の一部として認められていますが、多くは時間外の活動です。教職員の善意の上に成り立っている活動なのですが、こうした大切な教育成果を上げています。

（清水中の話として紹介しましたが、本年度サッカー部は、御影中の生徒も４名入った合同チームです）

御影中学校

自立に向けて～何のために学ぶのか～

校長　寺　島　康　博

数年前のある調査では、日本人は「私は価値ある人間だと思うか」という質問に対して、そう思う8%、少しそう思う24%でした。そして、「自分に満足しているか」という質問に対しては、そう思う 4%、少しそう思う25%でした。これは諸外国から見ると半分以下の数値になっています。そこから見えてくる今日の教育の課題としては、「学びに対する興味関心の薄さ」や「将来との関連性の見えないままの学び」、「極端な自尊感情の低さ」にあると考えられます。特に、今習っていることが将来どのように役に立っていくのかということが自覚できないままで学習に取り組んでいるので、興味関心も湧きづらく、なかなか積極的になれないのが現状です。その改善のために、中学校ではキャリア教育の充実を図り、自分の将来のために学習することの喜びを感じさせたいと思っています。

キャリア教育というと、上級学校への進路学習の

ことだと何となく考えがちですが、実はその先の社会へ出るための大切な準備のことなのです。キャリア教育の定義とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」です。要するに社会における自らの役割や将来の生き方・働き方について、体験を通じて理解を深めさせ、進路も含めてしっかりと考えさせていくということになります。御影中では職業観を養うために、一年生では職業について調べ、二年生では職場体験を行い、そこで自分の将来について少しでもイメージしていけるよう指導しています。三年生では一学期に上級学校訪問を行うことで、自主的に自分の現実的な進路を考えていく良い機会としています。

今年度は、台風による災害が発生したため、二年生は 11 月24 日（木）に職場体験学習を行っています。販売店での接客や在庫整理などの事務作業を体験する人、保育所で小さな子どもたちと接する体験をする人など、さまざまな職業を体験しました。実際に社会に出て働いてみて、仕事場に立つ時の心構えや、職場で働いている方々との交流を通して、コミュニケーションの大切さなどを学んできました。「こんにちは」「ありがとうございました」などの挨拶はもちろんのこと、時間を守ることや礼儀正しく振舞うことなど、これからの将来に必要なことを学んできました。

いずれ社会に出て自らの役割や価値について実感が伴ってくるとき、中学校３年間で積み重ねてきたキャリアはきっとこれからも自分を支えてくれるようになるはずです。職業調べや職場体験、進路学習だけでなく、各教科の授業時間、総合的な学習の時間や道徳、特別活動でもそれぞれに人間関係形成・自己理解を進め、社会の中で自己を生かす能力を育てていきたいと思います。何のために学び、そして自らの役割や価値はどのようなものなのかを、義務教育の中で育んでいきたいと思います。人の役に立つことの素晴らしさを考えさせ、自己の資質を高めていくことの大切さを教えていければと考えています。

盲導犬体験教室

２年生における盲導犬体験教室。おとなしく賢い盲導犬に生徒はびっくり！　目の不自由な人を誘導し、好きなところへどこへでも連れて行ってくれると思っていましたが、犬は信号の色を判断できないので道路を横断する判断はあくまで主人が行うことを知りました。その命令が間違っているときに盲導犬は指示に従わず､安全を優先させるのが任務です。盲導犬はユーザーの指示に従い、　１．道をまっすぐ歩く　２．交差点で止まる　３．障害物を避ける　４．目的物を探す　５．不服従の服従　の５つが主な仕事だということを北海道盲導犬協会の西川依子さんにご説明いただきました。その後、生徒全員がアイマスクをかけ、盲導犬に導かれながら体育館を歩きました。

清水高等学校

総合学科２０周年！　～　東大の先生をお招きしました

校長　西　嶋　潤　一

１２月３日（土）１０時から、清水高校振興会の主催で「清水高校の総合学科を語る集い」が行われました。今回は「社会人に必要な学びを考える」をテーマとし、東京大学の中原淳准教授をお招きし、子どもたちがどうして勉強しなければならないか、現代の社会状況を踏まえて分析、わかりやすくお話しいただきました。

平成９年４月、全日制総合学科４間口を募集し、総合学科１期生を迎えた清水高校ですが、そのまま４間口を維持し、今春には総合学科２０期生、１４３名が入学して来ました。４回目の「総合学科を語る会」では、振興会に予算の若干の増額をお願いし、東京から講師を招聘し、清水町全体の教育への寄与を考えた会になりました。

最初に主催者である伊藤英人振興会会長、伊藤登教育長から会の趣旨についてお話があり、中原淳先生は「これからの社会を生きぬくために子どもたちに必要なもの～仕事やお金と向き合う教育論」と題して７５分間、ご講演されました。

中原先生はもともと企業の人事、人材開発を研究されていて、ヤフー、アサヒビール、ＪＲ東日本、ソフトバンク、三井住友銀行、日本郵政、新日鉄、ヤマト運輸等々、多くの企業の新入社員教育に携わっています。旭川市出身ですので、そうした大企業のトップビジネスマンを美瑛町に連れてきて、美瑛の地域振興を題材にプロジェクト学習を進めるなど、日本や世界を飛び回って活躍されています。そうした活動を通して、高校までの時代に何を学ばなければならないかを考え、対話やグループワークを取り入れた高校での授業研究にも取り組んでいます。

全国での取材の様子は「マナビラボ」というサイトに詳しく掲載されていますので、是非、ご覧ください。１２月中旬以降、清水高校で取材した数学の授業も紹介される予定です。

具体的な事例を通して「聞く」→「考える」→「対話する」→「気づく」ことが２１世紀を生きる人々にとって大切な学びであることの紹介があり、ニーズの多様化が進む社会で激しい市場変化に対応するビジネスのためには、リーダーを中心に組織的に作戦を立てていく必要、「探究力」「対話力」「異文化力」の必要性についての指摘は、我々教える立場の人間も深く納得できるものでした。国語、数学、英語の基礎力が社会に出て必要なことの話は、中学生・高校生にも、もっと聞かせたかったですね。そのための授業手法である「アクティブ・ラーニング」の充実については、多くの先生方に聞いて欲しい部分でした。

「知識モードの学び＝基礎学力」の基礎の上に「キャリア意識の学び＝仕事人生を生きる覚悟」、これを早く扱うことができる総合学科の優位性、さらにその上に「経験モードの学び＝社会で必要になる経験の前倒し」を積み重ねていく必要があることは、高校でのキャリア教育にとって、また、社会と学校の意識格差を広げないためにも重要な示唆となりました。

最後に保護者には、「どんと構える！じたばたしない」から始まり、基本的な生活習慣の維持、折にふれて「傾聴」という助言もいただきました。

清水高校の紹介は３年次の薩摩基君と秋田谷紅乃美さんに決意表明も含めてお任せし、３年間の高校生活も振り返ってもらいました。司会は３年次の野久今日子さんがよどみなく務め、生産技術系列の生徒たちが素晴らしい「パン」を作り装飾をほどこし、会場に華を添えました。受付、会場等は女子バレー部の生徒が準備し、総合学科をたくさん語らなくても生徒を見ていただけば、学校の今がわかります。生徒は私たちの「誇り」です。

中原先生の言う「聞く」→「帰る」→「忘れる」というパターンに陥りがちな講演会企画ではなく、清水の町の教育に何かしら貢献できるよう、子どもたちを成長させていきたいと考えております。参加者がもう少し増えてくれるといいな、というのが校長の願いです。

（総合学科を語る集い）

清水幼稚園

園長　福　原　幸　江

発表会の VTR を見ました・・・写真の展示！！

第 39 回の発表会を 11 月 13 日（日）に行いました。おじいちゃん、おばあちゃん、地域の方々などたくさんの方たちのご来園をいただき、多くの励ましや声援をかけてくださり感謝申し上げます。また、今年も父母と先生の会の役員の皆様に道具だしやアナウンス、照明など多くの場面でお手伝いをいただき、そのおかげで無事に終えることができました。心よりお礼を申し上げます。子どもたちは、園で撮った VTR を時間設定し、数日かけて見ました。ちょっと緊張した中にも最高のパフォーマンスをしようとがんばる自分の姿を照れながらもしっかり見ていました。

参観日！　親による読み聞かせ、お店屋さんごっこ準備

12 月２日（金）に第２回参観日を行いました。
２回目の参観日の朝のスタートは、親による読み聞かせから始まります。前日に本を借りた子どもたちは、お母さんやお父さんに読んでもらうのをとても楽しみにしていました。幼稚園では平成 20 年からこの取組を行っています。

また、子どもたちに本に親しんでもらうために、毎週木曜日に本を２冊貸し出し、家での親子読書に役立てていただいています。町図書館が、毎月本の貸し出しをしてくださるのも心強く思っています。小さい時から本に親しみをもつ環境を用意することで、文字への興味や多くのことに関心をもつ子どもに育ってほしいと考えています。家読は“しみず「教育の四季」”につながっています。

教育委員会

しみず「教育の四季」子どもフォーラム

「いじめ」について～活発な意見交流

11 月 24 日（木）、文化センターで“しみず「教育の四季」子どもフォーラム”を開催しました。

町内の小・中・高 5 校の児童会、生徒会役員、教職員、PTA 関係者、行政、町民など約 70 名が参加しました。

各学校の児童会・生徒会からの“しみず「教育の四季」”の取組が紹介されたあと、清水高校生徒会会長の大久保珠美さんの司会進行で「いじめ」をテーマに意見交流が行われました。

参加者からは活発な意見が出されました。「いじめられている人は、なぜ他の人に言えないのでしょうか」という質問に「親に心配をかけたくないから」「いじめが今よりひどくなってしまうのではないか」「いじめられていることが知れたらはずかしいから」また、「友達がいじめられているのを知ったらどうしますか」の質問には「心の中では助けたいと思っても、見て見ぬふりをしてしまうかもしれない」など、自分に置き換えて、本音で答えていました。どうすればいいか分かっていてもなかなか行動に移すことは難しいことが理解できました。

今後はこれらの意見を踏まえ、いじめの未然防止に向け、本協議会として何ができるか検討をしていきたいと思います。

（教育指導幹　清　水　彦　一）

しみず教育の四季

家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から
感性あふれ，表情豊かな子を育てる

冬～厳しさに生きる人の中で　きたえ磨く

家庭・学校・地域
今月の取組
家庭は、みんな揃って
楽しい団らん
地域は、向こう三軒
みんな家族